

前回11月21日の例会記録

出席の状況

会員数 56名（内出席免除 3名） 出席者数 47名 欠席者数 9名

出席率 85.45% 前々回訂正 92.59%

欠席者 加戸、鴨井、笠原、川本、木本、大賀、槌田、氏房、（平野）

S . A . A .

岡本(和)会員：熊野会員、大畑会員 本日のイニシエーションスピーチよろしくお願いします。

末吉会員：熊野様、大畑様、本日のイニシエーションスピーチよろしくお願い致します。

森本会員：金子さん、橋高さん、楽しいタイ・バンコク旅行を楽しむことができました。ありがとうございました。またタイで私のアメリカ留学中に会った日本人の方と再会しました。20年ぶりです。感動しました。

鈴木会員：ファジアーノが初めてプレーオフ進出したのでスマイルさせていただきます。

橋高会員：11月23日のゴルフコンペに急な仕事が入り、欠席させていただきます。申し訳ございません。

坪井会員：結婚記念日に素敵なお花をありがとうございます。私の好きな白のアマリリスが入っており、とても気に入っています。

大畑会員：おかやまマラソン完走できましたが、「第3回高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム」には、欠席して申し訳ございませんでした。スマイルさせていただきます。

7件 21,000円（累計 652,000円）

会長報告

会長 岡本和夫

ロータリー財団-ポリオ撲滅について

今月はロータリー財団月間です。RIを挙げて取り組んでいる「ポリオ撲滅」についてお話してみたいと思います。

ポリオとは、20世紀を通して子どもを中心に多くの人々に重い障害を遺してきたウイルス感染症です。正式な病名は、Poliomyelitis(急性灰白髄炎)といい、手、飲食物を通して人から人へ感染していきます。当時から「小児麻痺」と呼ばれ、手や足の一肢に弛緩性麻痺を遺します。1916～1917年アメリカで大流行し、ニューヨーク市だけで9000人以上の患者が報告され、全米では2万7000人以上が発症し、6000人が死亡したと報告されています。かのフランクリン・ルーズベルト大統領も39歳の時に発症し、以後不自由な体を押して大統領職を務めています。彼が当初個人的計画として始めたものが、「人命を奪ったり不自由にしたりするポリオ感染のあらゆる方面での戦いを統一し、方向を決めて進める」という目的で、1938年アメリカ小児麻痺財団となりました。「ダイムの行進」というキャッチフレーズがつけられました。その後、1955年ジョナス・ソークが開発したワクチンが事業化され、さらに1962年、セービンの経口生ワクチンが開発されましたが、これはポリオ・ウイルスの生きている弱毒変異株で、腸内でウイルスの先祖返りが起こることがあり、統計では生ワクチン投与100万件に2～4名のポリオ患者が発生するといわれています。

さて、RIではロータリー創立75周年を迎えるにあたり「3-Hプログラム」を発表しました。3-Hとは、Health(保健)、Hunger(飢餓追放)、Humanity(人間性尊重)のプログラムで、1979年7月からロータリー財団の事業計画として採択されました。その最初の事業として、フィリピンの3ヶ月から36ヶ月のこどもにポリオ経口生ワクチンの投与が始まりました。これがロータリーのポリオ・プラス活動創設の元となり、1984年ポリオ撲滅2005年計画を発表し、募金を募りました。1988年WHOはRIの進言を容れ、ポリオ根絶計画を決議しました。インドでは撲滅され、残るはナイジェリア、アフガニスタン、パキスタンであります。エンドゲームの中で今なお、5つの主要な課題が残されています。(1)治安、(2)住民の無関心、(3)常在国の責任、(4)すべての子どもたちに予防接種する難しさ、(5)資金不足であります。不活性化ワクチンではポリオ発症はありませんが、ワクチンが高価な上に専門家が必要です。野生と生ワクチン由来のウイルスの両方を駆逐して初めてポリオ撲滅がなし得るといわれています。

幹事報告

幹事 末吉賢多

- ① 2015-2016年度 地区活動報告書を配付しております。
- ② 第2回IDMのご案内をFAXでお送りしております。ご出席をお願いいたします。
- ③ 本日例会終了後、13時30分より3F「ルビーの間」において、「第2回指名委員会」を開催いたしますので指名委員会メンバーの皆様はご出席ください。
- ④ 他クラブ週報を回覧いたします。

イニシエーションスピーチ

◎熊野 俊策 会員

私の父は旧日本海軍航空隊のパイロットでした。

父は平成12年にこの世を去りました、軍隊解体後は郵便局に勤めた後、都山流尺八の世界に身を投じて私たち兄妹を育ててくれました。

父は無口で、無駄なことや自慢も人の悪口も言わず、本当に笑った顔もほとんど見たことがなく、まして戦争の話は一切しませんでした。

私は父が零式水上観測機のパイロットであったことは知っていましたが、華やかな戦闘機ではなかったのであまり興味もなく話を聞くこともしませんでした。父を見舞いにきた叔父が、おまえは紫電改まで操縦して思い残すことはないだろうと話しているのを聞き、初めて陸上戦闘機を操縦していたのを知りました。

自慢をしたことがない父が「水上機のパイロットはいつでも陸上機に代われるが、陸上機のパイロットは絶対に水上機には代われない」と言っていたのを思い出し、それほど水上機は夜間や荒れた海での離着水は難しかったのでしょ。

紫電改は戦争末期に登場しアメリカの戦闘機と互角に戦える戦闘機でしたが、生産機数は500機程度しかなく、部隊は歴戦の操縦者で構成されていたため、父は予備の操縦員だったと思います。

父は戦争が始まる昭和16年5月に尋常小学校卒業後、第16期乙種予科練習生として土浦の海軍航空隊に入隊しました。

3年間の厳しい訓練の後、19年の秋頃に実戦部隊に配属されたようです。同期生1237名の内834名の方が戦死される中何とか生き残れましたが、足に貫通銃創を受け一時別府の海軍病院に入院していました。

陸上戦闘機の操縦員に代わった父は、零戦の全ての機種を操縦したあと紫電改に代わったそうです。

古いアルバムの中の父は、戦闘機をバックに戦友と肩を抱き合い満面の笑みで写っており、父が一番輝いていた頃の話をもっと聞いて、私の娘や孫に聞かせてやりたかったと思っています。

◎大畑 裕一 会員

改めまして、10月に入会させていただきました、大畑 裕一でございます。

生まれは、東京オリンピックの真ただ中の昭和39年10月14日、名古屋生まれの岡山育ちの52才です。

家族構成は、妻と子供2人で、子供はすでに社会人となりまして、長男には子供も授かり2歳の男の子のおじいちゃんです。

現在、私は岡山の北区今に本社のある医療機器の卸売業をしています、(株)カワニシに在籍しております。大学卒業してから一筋でお世話になっています。入社のきっかけは、特に今の会社に入りたかった訳ではありませんでしたが、業種・会社にこだわりなく何も考えず、一番最初に内定をもらったとこに決めようと思っておりまして、それが縁で入社しました。仕事の内容は、医療機器の販売でお客様(病院・医院)へのルートセールスかと思っていましたが、それほど簡単で単純ではありませんでした。ご存知かもしれませんが、医療機器は約30万品目(4000種)で、医薬品は約2万品目と取扱う品目量が桁違いに多いのです。そのうえ、日本の市場は医療機器が約2.8兆円、医薬品は約10兆円となっており、医療機器は少量多品種です。取り扱いは、安価な絆創膏などから高額なCT・MRIなど幅広く、また手術材料の心臓ペースメーカー・人工関節インプラント・眼内レンズなど様々です。医療機器は納品して終わりではなく、新たに導入した医療機器を安心・安全に使用してもらうために、要請があった場合には医療現場(例えば手術室など)に入って使用説明をしたりします。手術や検査などは患者さんに合った医療機器をその都度Drと打合せをして医療機器を納入することがほとんどです。急患が入った場合は、夜間や休日問わず納品や立会いをすることも多くあります。また今日では、医療費が大きな社会問題として取り上げられていますが、医療は医療行為ごとに診療報酬点数が決められていて、それによってほとんどの医療機器は医薬品と同様に公定価格(製品の価格)が国によって決定されています。医療機器は高いといって国からは価格が引下げられ、病院様からは厳しい価格要請が求められています。思った以上に結構厳しい業界ですが、何とかやっております。私どもは製品を作っていないので、お客様へのサービスは製品の価値でなく、それに付帯するサービスを提供することです。医療機器の販売を通じ地域医療の発展に貢献できる企業を目指しております。

ここには医療関係者の方々もいらっしゃいますがご支援よろしくお願いいたします。



私個人について少しお話をいたします。

中高大と陸上競技に専念していきまして、種目は三段跳びをやっていました。高校時代には今では問題になるくらい厳しい指導(叱られたり殴られたなど)を受けたおかげで、インターハイや国体にも出場させていただきました。たぶん今の教育者としては通用しないでしょうが、私にとって今になっては最高の恩師であります。今振り返って見ると言うことを聞かない生徒だったように思います。

社会人になってからは運動をまったくしていませんでしたので、体重も増え体型も緩んできましたので何かしないと思い、ここ数年休日にはジョギング(30～40分)を始めています。友人から今年の岡山マラソンに出ようと誘われて半信半疑に応募したところ当選してしまい、走るはめとなりまして先日の大会に出場しました。幸先よく20キロくらいまでは余力がありましたので、これは簡単に完走できるだろうと思っていましたが、考え甘く30キロ過ぎに急に足が重くなり足を上げるのが非常につらくなりました。疲労感も大きくなりましたがペースを落としそして、沿道の声援の後押しを貰いヘロヘロになりながら何とか完走することができました。今回は全く爽快感もなくしんどく辛いだけのマラソンでしたが、来年は少し楽しく走れるように練習いたします。

マラソン当日は、「高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム」の開催がありましたが、お手伝いできず申し訳ございませんでした。

私の趣味は、海釣りです。磯釣り、船釣りが中心です。磯は宇和島(愛媛県)へ船釣りは山陰まで出かけます。魚種は様々ですが、アジ・マダイ・イカ・グレなどを狙っています。腕が悪いので中々大漁とまではいきませんが、おかず程度を釣って帰れば上出来です。帰ってから嫁さんは調理してくれませんので、私がMy包丁を持ってさばきます。上手にはさばけませんが自分で釣った魚を食べるのは格別です。釣って、捌いて、食べる、これが楽しみなので釣りはやめられません。ゴルフはほとんどしませんが釣りでしたらお付き合いできますので、もし釣りの好きな方がいらっしゃいましたらお気軽にお声かけください。

最後ですが、北西ロータリークラブに入会させていただきまして、クラブの活動を通じて色々な業種の方々と交流と親睦を深め、社会勉強できればと思います。皆様方からのご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。取り留めもない話となりましたが、これでイニシエーションスピーチとさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

クラブ情報

地区補助金事業 第3回高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム

青少年奉仕委員会委員長 小松原 隆代

11月13日(日)に開催された「第3回 高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム」には多くの皆様方にご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。

10校、15チーム、60名の参加で素晴らしい発表がたくさんありました。

出場した一部の学校に対するメディアからの出演依頼に関しては、本日発行の週報に掲載しておりますのでご覧ください。

また、11月18日の山陽新聞朝刊・くらし面にこの度のフォーラムに関する記事が掲載されましたのご報告いたします。



例会情報

本日のメニュー (11月28日(ミリオン和食))

井	ピーチポークの燻製仕立て	白髪葱、刻み葱	別猪口	酢橘	
五穀御飯	(岡山県産こしひかり)	小鉢	蓮根金平	煎り胡麻	人参、蒟蒻
温物	風呂吹き大根	柚子味噌	青身	赤出汁	香物 三種

次回のメニュー (12月5日)

ズワイ蟹と冬のお野菜 バルサミコ酢を効かせて
牛肉と野菜のポトフ
デザート コーヒー パンとバター